

放射線



「韓国の受験競争はどうなっているんですか?」「徴兵制のしくみは?」「南北統一については?」…。講義が終わると、質問の連続である。

講義と言っても、大学でのことではない。大学受験予備校の話だ。勤務している大学のPRを兼ねてもよい

というので、大手予備校が主催する教養講座のようなどころに招かれて、最近の「冬のソナタ」ブームなど、日韓関係について講義してきた。質問は、教室で時間内におさまらず、受講生らは講師控室にまでやってきて、キラキラ瞳を輝かせながらいろいろなことを聞いてくる。

実は、大学での私の講義後に強からの解放感のためといったところだろうか。

「輝く瞳」を維持させるにはどうすればよいのか。「鉄は熱いうちに打て」という手法が大学教育のなかでもっと必要なのだと思

う。予備校の教職員によれば、「大学の講義は期待はずれだ」と愚痴をこぼしに来る元塾生が少なくないとい

う。

予備校生の「輝く瞳」

予備校生が大学受験の可否にどでも質問が多くてキャンパスにはない刺激を受けるが、特に

理由は、テーマ予備校での「特別講義」では純マへの純粹な真な浪人生の態度に心が洗われ

関心、大学講義への羨望、(小針 進)静岡県立大学助



日頃の受験勉強教授